

土木學會 20 週年 記念會の盛況

—— 記者 ——

十月二十六日を第一日として三日間に及ぶ土木學會創立二十周年記念大會は我が國土木技術家の公的催の會合としては實に空前の盛觀を呈したものであつた。

集まるもの滿洲より、北海道より、内地各方面の會員と共に數百名に達し、二十六日の上野精養軒に於ける祝賀晚餐會の如き堂々三百名に達する官民各方面の權威者相和して品位ある祝賀の宴を擧げられた。

祝賀會は先づ眞田前會長開會を宣し、久保田會長の會勢報告を兼ねたる祝辭に次いで、岡田首相、後藤内相、山崎文相、内田鐵相等の祝辭あり。終りに日本工學會を代表して佐野利器博士の祝辭があつた。此の日本工學會の祝辭に就いては實に感慨無量のものがあるそれはプログラムに依れば此の日本工學會を代表する祝辭は古市博士亡き跡の德望學識を以て我が工學會を代表してゐた機械學の權威者斯波忠三郎博士の豫定であつた。然るに人事の圖り難きは寔に夢の如く、僅に旬日餘にして斯波博士の英姿を仰ぐ事の出來なくなつた事は單に當夜の土木學會祝賀會のみならず我日本全工學界の爲に残念至極の事であつた

晚餐會後テーブルスピーチに於て、三邊文部次官は會て内務省土木局長としての土木技術家に親しかりし當時を回顧して會員に敬意を表し。前會長古川阪次郎博士は老齡の老婆心までにとて、工事の良否により災害を大ならしむる責任の重大なる事を述べて痛烈なる一矢を放たれた。次いで滿洲より列席したる羅津港建設事務所長桑原利榮氏は自分の土木生活も恰も二十周年なりと其間の我國土木技

術の發展を祝福して一同と共に杯を擧げ。北大の小川敬次郎博士は今日の我土木學會が歐米のそれに比して少しの遜色もないが、希望としてエンヂニヤース、ホール設立を提唱し。九大の君島八郎博士は成層圈スピード研究時代に入りつゝある際、土木工學の研究努力に一層の警告を與へ。内務省大阪土木出張所長の高西敬義博士は本年九月の京阪地方の風水害に就て技術的説明を與へられ。名古屋高工の北澤忠男教授は土木學會員は單に會誌の配布を受くるのみでなく、會員としての人格的品位を保つ事により、會の隆盛と工學技術の一層の發展に寄與すべきであると結ばれた。最後に會員一同杯を擧げ土木學會の萬歳を三唱して歡談裡に宴を閉ぢたのは八時頃であつた。

第二日と第三日は記念講演會と見學とであつた。講演會は前會長那波光雄博士司會の下に午前八時半より丸ノ内帝國鐵道協會講堂に於て開催され、從來の例を破つて多數新進の研究家及び實地の老練家を配して土木工學の各方面を網羅し、講演も要點のみをスピードに進行せしめ、聽講者もレコード破りの滿員の盛況であつた。

見學會は專賣局業平煙草工場及び新議院。最終日は東京市の築地中央卸賣市場及び東京港と芝浦下水處理場とであつたが、何れも擔當當局者の用意周到なる案内と接待とに預り參加會員何れも満足にて記念大會を祝福して行を終つた。(二十九日一記者)